



埼玉大学教育学部の伝統の継承とさらなる発展をめざして

埼玉大学教育学部長 堀田 香 織

ご挨拶

二〇二二年度より学部長を拝命しました堀田香織でございます。

日頃より教友会の皆様には多くのご支援を賜り、心より感謝しております。私は一九九九年に埼玉大学に着任しました。臨床心理学を専門としており、教育相談やカウンセリングなどの授業を担当してまいりました。また、現ダイバーシティ推進センターの前身である男女共同参画室や、ハラスメント相談、何でも相談などに携わってまいりました。今、変革の時に学部長を拝命し、身の引き締まる思いでおります。これまで築き上げた教育学部の伝統を大切にしながら、社会の変化とともに求められる変革に対応するよう努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

Withコロナ時代に向けて

二〇一九年に発生した新型コロナウイルス感染症は埼玉大学に大きな影響を与え、この原稿を書いている時点では第八波に突入しようとしています。この間二〇二〇年度〜二〇二一年度は遠隔授業が

中心でしたが、二〇二二年度になって対面授業が復活し、学生たちがキャンパスに戻ってきました。

対面授業が復活することで学生と教員、あるいは学生同士のつながりも飛躍的に増え活気を帯びました。一方で、埼玉大学ではコロナ下で体験した遠隔授業のメリットとデメリットの調査がなされました。例えば、動画による遠隔授業は学生たちが視聴する時間にとらわれず、何度も繰り返し見ることができます。そしてコメントペーパーなどを通して教員に質問を投げかけ、それに対して教員が返信を行うという双方の関わりができます。対面授業では手を挙げて質問されることがほとんどなくとも、コメントペーパー上では大切な質問が数多く寄せられました。そして、それらへの回答を他の学生も共有することによって、理解をさらに深めることが可能となりました。こうした遠隔で行うことのメリットが大きい授業については、今後も一定程度遠隔で行われることとなります。このようにWithコロナ時代の大学教育が模

索されています。

教職大学院の現状と展望

ご存知のように、埼玉大学教育学研究科では、これまで並立していた修士課程と教職大学院が二〇二一年度教職大学院に一本化されました。そして、すべての教員に対応する「教科教育高度化プログラム」と、心理・教育実践学、特別支援、学校保健、教育学、乳幼児教育を含む「総合教育高度化プログラム」の二つのプログラムから構成されることとなりました。教職大学院の定員も一学年五十二名となり、全国でも有数の大規模な教職大学院となりました。現職教員も数多く受け入れ、リカレントの場としても機能しています。また、学部から進学した院生たちは実際に教育現場に立つ「実地研究」により、実践的な力を身に付けています。これらの学部から進学した院生と現職教員が共に自らの教育実践を振り返り、語り合いながら省察を深め、お互いに刺激し合う交流が生まれています。一方教授陣としては、豊かな教職経験を有する実務家教員を含む教育

学部の教員全員が、この教職大学院を担当しています。実務家教員や実践系の教員と理論を練り上げてきた教員とがいかに協働して授業をつくりあげ、そこに理論と実践の往還を生み出せるかということが、課題となっています。そして今後、学部から教職大学院に至る六年一貫の教員養成モデルを作り上げ、より高い力量の教員を輩出していくことを目指しています。

埼玉県の国立大学として

「教師の仕事はブラックだ」などと報道される昨今、教師を目指す若者の数が減り、埼玉県では二〇二三年度採用の小学校教員採用試験倍率は二倍を切りました。教師の働き方改革は国を挙げての喫緊の課題となっています。そして、埼玉県の公立学校、埼玉大学附属学校園でもICTの活用などを通して働き方改革が進められています。「教師も自分や家族との時間を大切にしてこそ、全力で学校の子供たちに向き合える」、そんな意識の変化も起きつつあるように思います。そして埼玉大学は埼玉県立の国立大学として、より力のあ

る教師を一人でも多く養成することが期待されています。国立大学としての使命を果たすべく取り組みを続けていく所存ですので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。